秀英舎　S32『活版見本帖　未完』推定一八九六年（明治二九）

一号
いろはにほへと　ねた　れを

二号
いろはにほへと　ねたのやれを

三号
いろはにほへとあねたのやれを

四号
いろはにほへとあねたのやれを

五号
いろはにほへとあねたのやれを

六号
いろはにほへとあねたのやれを

秀英舎　S34『活版見本帖』一九〇三年（明治三六）

初号
いろはにほへ

一号
いろはにほへと　を

二号
いろはにほへと　た　れを

三号
いろはにほへと　ねた　れを

四号
いろはにほへとあねたのやれを

五号
いろはにほへとあねたのやれを

六号
いろはにほへとあねたのやれを

秀英舎　S35『活版見本帖』一九一四年（大正三）

初号
いろはにほへと

一号
いろはにほへと　ねたの　れを

二号
いろはにほへと　た　れを

三号
いろはにほへと　ねた　れを

四号
いろはにほへと　ねた　れを

五号
はに　へとあ　たのやれを

六号
いろはにほへと　ねたのやれを

秀英舎　サイズ別見本帳

初号　S1『明朝初号活字見本帳』一九二九年（昭和四）
いろはにほへとあねたのやれを

一号　S2『壹号明朝活字見本帳』一九二六年（大正一五）
いろはにほへとあねたのやれを

二号　S4『明朝貳号活字摘要録』［ろ号ひら仮名］一九一二年（明治四五）
いろはにほへとあねたのやれを

三号　S5『明朝三号活字見本帳』一九二九年（昭和四）
いろはにほへとあねたのやれを

四号　S6 仮称『明朝四号活字見本帳』推定一九二八年（昭和三）
いろはにほへとあねたのやれを

五号　S7『明朝五号活字摘要録』一九一三年（大正二）
いろはにほへとあねたのやれを

六号　S9 仮称『明朝六号活字見本帳』一九二六年（大正一五）
いろはにほへとあねたのやれを

築地活版所　T 44『Book of Specimens』一八七七年（明治一〇）

一号
いろはにほへとあねたのやれを

二号 T44A
いろはにほへとあねたのやれを

二号 T44B
いろはょほへとあねたのやれと

三号
いろはにほへとあねたのやれを

四号
いろはにほへとあねゑのやれを

五号
いろはにほへとあねたのやれを

六号
いろはにほへとあねたのやれを

築地活版所　T 45『新製見本』一八八八年（明治二一）

一号
いろはに　へとあ　たのやれを

三号
ろはにほへとあ　たのや
と

四号
いろはにほへとあねたのやれを

平形五号
いろはにほへとあねたのやれを
を

六号
いろはにほへとあねたのやれを
と

築地活版所　1　46『活版見本』一九〇三年（明治三六）

T46A

初号
いろはにほへとあねたのやれを

一号
あ　のや

二号
いろはにほへとあねたのやれを

三号
いろはにほへとあねたのやれを

四号
いろはにほへとあねたのやれを
と　を

五号
いろはにほへとあねたのやれを

六号
いろはにほへとあねたのやれを

T46B

一号
いろはにほへとあねたのやれを

二号
いろはにほへとあねたのやれを

三号
いろはにほへとあねたのやれを
と

四号
いろはにほへとあねたのやれを
と

五号
いろはにほへとあねたのやれを
と

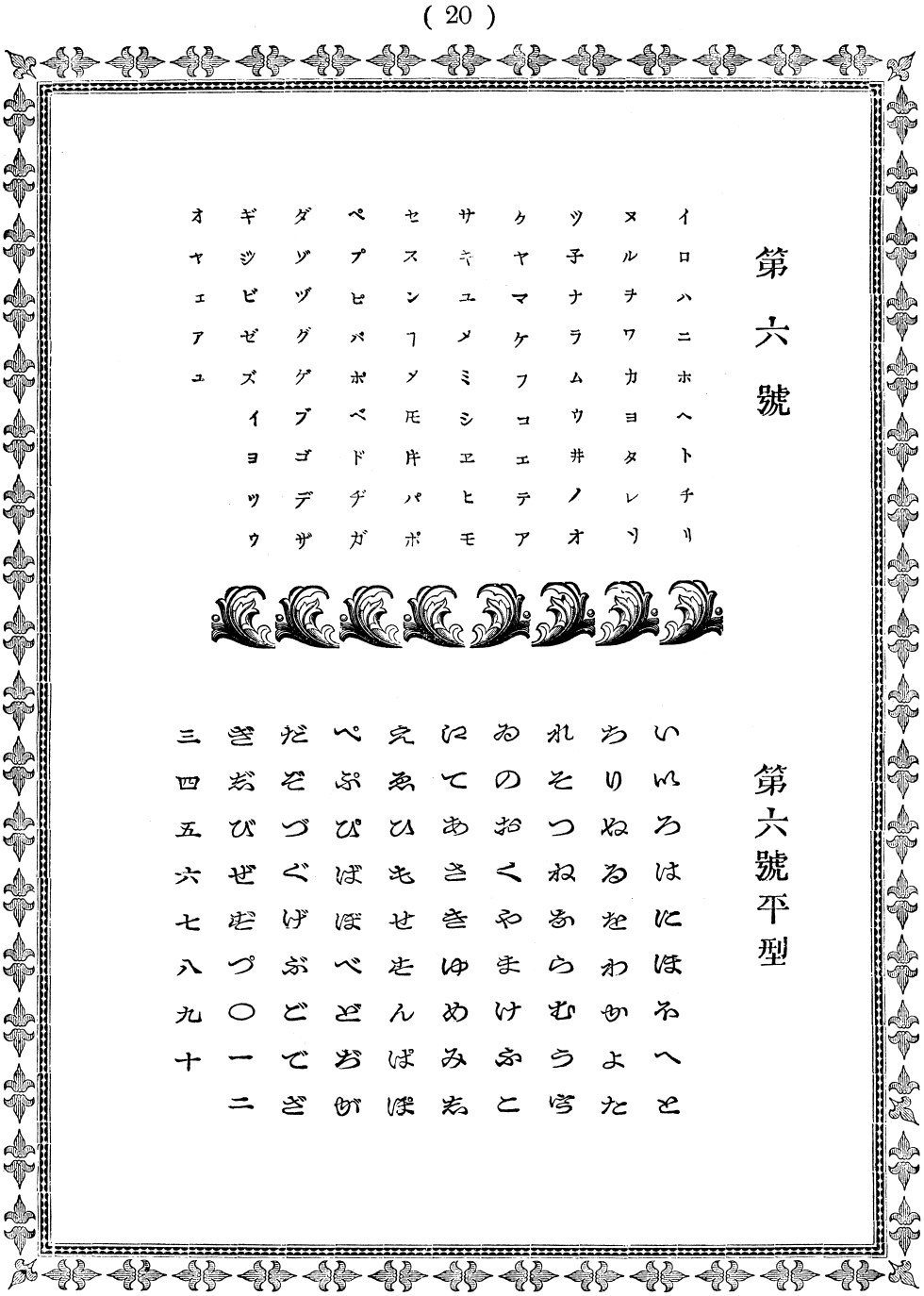
## 七―一　考察の視点

初号―六号までの秀英体ひら仮名について、五章での考察結果をもとに秀英舎と築地活版所の見本帳別にさらに考察を進めて、号数体系の秀英体ひら仮名活字考察のまとめとしたい。

見本帳別の活字デザイン一覧を四八八ページ以下に掲載した。この標本のうち、**S**32『活版見本帖　未完』、**S**34『活版見本帖』、**S**35『活版見本帖』、**T**45『新製見本』については五章の冒頭で述べた画線処理は施していない。また見やすさの点から、初号―六号までのすべてのサイズを二号の近似値で表示したことから、画線の乱れが見られるものがある。そのために微妙な線の太さや末端の形状やつながりなどといった不安定な箇所は検討の対象としていない。

このデザイン一覧からは、初号―六号までの秀英体ひら仮名の成立過程をみてとることができる。すなわち先行して開発された活字は、後発の活字に対してサイズの枠をこえた影響を与えていることが判明した。一例としては、初期においては築地活版所の活字を導入していた六号ひら仮名は、先行して開発されていたほかのサイズの秀英体ひら仮名を参考にすることで、のちに秀英舎独自の書風をもった活字としてあらためて登場する。

このような築地活版所から秀英舎への影響や、秀英舎の活字の相互影響を、それぞれの見本帳ごとに見ていこう。まずは本章で取り上げたおもな資料としてもっとも古い**T**44『Book of Specimens』から順に、築地活版所のひら仮名の特徴を捉えて、のちにそれらと秀英舎のひら仮名書風の類似点や相違点を比較検討して、秀英体の各サイズの特徴と変遷を整理したい。



( 20 )

第六號

イロハニホヘトチリ
ヌルヲワカヨタレソ
ツネナラムウヰノオ
クヤマケフコエテア
サキユメミシヱヒモ
セスンヲメモヒ片パポ
ペプピパポベドヂガ
ダヅヅグゲブゴデザ
ギジビゼズイヨッウ
オャェアユ

第六號平型

いゐろはにほへと
ちりぬるをわかよた
れそつねあらむうゐ
のおくやまけふこ
ゑてあさきゆめみし
えあひもせすんぱぽ
ぺぷぴぱぽべどぢが
だぞづぐげぶごでざ
ぎじびぜずぢゅっゥ
三四五六七八九十〇一二

『活版様式』（1876年　東京築地活版製造所　板倉文庫所蔵）

**秀英体研究　サンプルPDF**

**『秀英体研究』についてのお問い合わせ**

大日本印刷株式会社
C&I事業部IT開発本部　秀英体プロジェクト（担当：伊藤・佐々木）

E－Mail ： shueitai@lab. cio. dnp. co. jp
tel ： 03－5269－5657
fax ： 03－5269－6023

© Jiro Katashio 2004